

YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY



**UNITE
FOR
GOOD**
よいことのために手を取りあおう



ガールスカウトとクリーン作戦

2025-26年度 RI会長／フランチェスコ・アレツォ
RI.D2590ガバナー／大塚 正一
横浜旭RC会長／五十嵐 正



第12回 チャリティーコンサート



防災先進国イタリアに学ぶ講演会開催

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区万騎が原33 / 〒241-0836
TEL.080-1215-6668 / FAX.045-362-0024
http://yokohamaasahirc.cho88.com
Email: asahirc@titan.ocn.ne.jp

例会場 二俣川駅ジョイナステラス3 / 4Fコミュニティサロン
例会日 月3回水曜日 / 12時30分～1時30分

2026年2月4日 第2605回例会 VOL.57 No.22

■司会 SAA 北澤 正浩

■開会点鐘 会長 五十嵐 正

■出席報告

会員数	20名	本日の出席数	12名
本日の出席率	66.67%	修正出席率	72.22%

■本日の欠席者

中谷、岡田、佐藤（真）、佐藤（勉）、宋、田川

■オンライン出席者

福村、市川

■ゲスト

大元 麻美様（わたぼうし教室代表）

川島 一真様（明治学院大学）

阿部 溪様（明治学院大学）

■会長報告 五十嵐 正

皆さん、こんにちは。

本日も例会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

先日のチャリティーコンサート、皆様のお陰で大盛況でした。チャリコン部会を始め会員の皆さまのご協力に感謝申し上げます。

当日は岩沼RCから鯨岡会長を始め3名の方が応援に駆けつけてくださり、ご挨拶をいただき、またお土産も頂戴しました。長年の交流

に感謝したいと思います。

実はその際意見交換をさせて頂き、今旭が行っている防災エコバックの話をさせて頂きました。

お分けして4日後の29日に突然メールが届き、縫製に詳しい方に試作を作っていた内容のメールでした。その後少しやり取りをし、本日鯨岡会長のお手紙とともにご紹介させていただきます。

■幹事報告

関口 大樹

※例会臨時変更のお知らせ

○新横浜ロータリークラブ

2月27日(金) 休会

3月20日(金) 休会（春分の日）

3月27日(金) 観桜会

○横浜南陵ロータリークラブ

2月19日(木) 移動例会（職場訪問）

3月19日(木) 創立記念夜間例会

3月26日(木) 振替休会

4月30日(木) 振替休会

5月7日(木) 振替休会

5月21日(木) 夜間例会

6月25日(木) 最終夜間例会

■チャリティーコンサート部会 新川 尚
 第13回横浜旭RCチャリティーコンサート
 アンケート結果 回答数 35

年齢

10代	15
20代	3
30代	1
40代	4
50代	5
60代	5
70代	1
不明	1

お住まい

旭区内	9
横浜市内	13
神奈川県内	11
神奈川県外	2

イベントについて

ご来場になったきっかけ

ポスター・チラシ	1
広報よこはま旭区版	1
友人・知人	8
出演者	21
その他	4

イベントの満足度

大変満足	31
満足	3
無回答	1

過去の出演者、引率教諭等

この活動分野に興味がありましたか

大変興味を持った	24
興味を持った	10
無回答	1

▶その他、ご意見ご要望ご感想などお聞かせください。

- ・この活動が続きますように… (10代)
- ・これからも続けて下さい!! (10代)
- ・出演者として来場しましたが、とても楽しい時間になりました (10代)
- ・出演者としても、観客としてもとても盛り上がって楽しかったです!!
 またぜひ参加したいです (10代)
- ・会場にいるみんなで盛り上がっていてとても楽しかったです (10代)
- ・多くの学生がそれぞれ熱意をもって演奏していた。もっと広くの人にこの活動を知らせても良いと思う (10代)
- ・ロックのソウルで楽しんだ～ (10代)
- ・運営の方々、出演者の方々、来場していただ

いた方々、みんなが盛り上げる雰囲気づくりを自分からして、聴いているときも、演奏するときも、ずっと楽しい時間になりました!!
 これからも音楽を通して記憶をつないでほしいです! (10代)

- ・ロックは世界を救う (10代)
 - ・来年も絶対見に行きます (10代)
 - ・今後の活動も、応援したいです (20代)
 - ・「花は咲く」など全員で歌えるチャリティーソングの演奏があると良いなと思いました! (20代)
 - ・震災教育の一環として活用させていただいております。動画の中に支援の様子なども入れていただくと生徒たちもどうすればよいか見えてくるかと思いました。いつもありがとうございます (30代)
 - ・思ったより本格的でよかった (40代)
 - ・同世代でもつながることがむずかしいので、同じ趣味でつながれる、こういう機会はすばらしいと思います。クラシックとちがって軽音楽で広いステージで演奏できるのはきっとすてきな経験になるはずです。みんなキラキラしててすてきでした (50代)
 - ・中高生のバンド、どれもすばらしかった。おじさんたちのバンドも大人の貫禄あってステキだった。今後もたのしみにしています (50代)
 - ・皆さん上手でした。楽しめてチャリティーになって良い企画だと思いました (50代)
 - ・今後も続けていって下さい (60代)
 - ・毎年楽しみにしています。ずっと続けてください! (60代)
 - ・こういうイベントはたくさんやってほしいです。ありがとうございました (60代)
 - ・毎回続けることの大事さを再確認させていただいております (60代)
 - ・どれも良かったです (70代)
- ニコニコBOX
 新川 尚/先日のチャリティーコンサートに御参加、お手伝いいただいた方々、ありがとうございました。募金額は80,332円となりました。来年もよろしくお願ひします。

安藤 公一／①川島様、阿部様、大元様ようこそお出でいただきました。本日の卓話よろしくお願いたします。②先週のチャリティーコンサートご参加の皆様お疲れ様でした。福村さん、新川さんのご尽力のお陰で13回続けてくる事が出来ました。今後も続けていけること期待しています。

二宮麻里子／本日の国際奉仕フォーラムは国際奉仕とは外れてしまい申し訳ありません。南区で活動しています学生2名の方のお話しとなります。

五十嵐 正／わたぼうし教室大元さん、明治学院大学の阿部さん、川島さん。ようこそ、本日の卓話よろしくお願いたします。

北澤 正浩／①明治学院大学、川島一真様、阿部溪様、わたぼうし教室、大元麻美様、ようこそいらっしゃいました。②チャリコン、お手伝いできることが限られてしまい、心苦しい限りです。

関口 大樹／わたぼうし教室大元様、明治学院大学阿部様、川島様。ようこそおいで下さいました。本日はよろしくお願いたします。

■わたぼうし教室に参加して

川島一馬様(明治学院大学4年)

わたぼうし教室は、「外国にルーツがある子ども」たちへの学習支援を行っている場です。社会人スタッフあるいは学生スタッフなど、さまざまな学習のスタッフが集まり、横浜市南区の国際ラウンジをお借りして学習支援活動をしております。

毎週土曜日に、子どもたちは学校からの宿題をもって来たり、日本語を学びにきたりしています。午前と午後それぞれ20人くらいの子どもが来ています。またスタッフも、子どもたちの数に合わせて、毎週来ています。そして最近では、日本語の初級クラスが開かれたので、日本語支援の必要な子どもたちが学習を続けています。

私がこのボランティアに参加したきっかけは、大学の授業「多文化共生各論」でした。明

治学院大学国際学部の授業では主に基礎を習得する「受け身の授業」が多かったんです。その中でより自分が主体的に動ける授業、特に私自身が高校の時から「教えること」が好きで、英語を話すのも好きでしから、自分の長所が生かせるような授業を探していました。奇跡的に、現場で研修できるこの授業と出会うことができました。

私が初めてわたぼうし教室に行った時のことをお話しさせていただければ、と思います。私は、誰かに「ものを教えること」が好きであっても、根本的にかなりシャイなところがある性格でした。人と話す時もすごく緊張して、なかなか人と話すことが難しかったのです。なので、子どもたちが相手であっても、相手はどういうような背景の子どもたちなのだろうとか、もうちょっといろんなことに配慮したほうがいいのかなってというような、気を遣うことがとても多かったのです。それで周りのスタッフさんからも「川島さん、もうちょっと落ち着いていいよ。もうちょっと自分自身を持って」というふうな声をかけられて、子どもたちからも「先生、落ち着いていいよ」と言われ、それを機に自分自身の中で何かが変わっていきました。まさに先生としての自分じゃなくて、子どもたちが自分を引っ張ってくれている感じでした。そうした中で、子どもたちが次第に自分のことを話してくれるようになっていきました。

そこで大きく見えてきたことが2つあります。

1つは、まず子どもたちの気持ちの問題、そしてもう1つは言語の問題です。

1つ目の子どもたちの気持ちの問題というのは、劣等感を持つ子どもがいるということです。衝撃的だったのは、私はわたぼうし教室に入って3年目なのですが、特に1年目の時のことです。子どもが、学校から出された日記の宿題を持ってきました。その子どもは、日本語は話すけれど、日本語を書くことができない。そのころでコンプレックスを抱いていたのです。小学

校の低学年の子どもが、コンプレックスについて語るということが衝撃的で、なおかつ私は中国語を操ることができませんでしたから、その子どもに中国語で支援することができず、自分が本当に子どもたちに対して何もできなかった…そんなはがゆい思いでした。ところが、むしろそれが原動力になって、わたぼうし教室に通い続けることになりました。

私たちは、子どもたちをサポートするけれど、その場における主人公は、子どもたちです。つまり、私は子どもたちが何をしたいかということを知り、その子に関わることが自分の最大の方針になります。そうした中で、子どもたちが母国から離れた異国の地で頑張っているのだから、自分自身もなるべくその子どもたちに柔らかに接したいと思い、心がけてきました。

それからもう1つは言語の問題。子どもたちがどんどん話してくれるようになってきたことで、自分の中でさらに深めていった問題です。これはいつも子どもたちにつきまとう問題です。

子どもたちは、母国語で数学とか理科とかの基礎的な勉強をしていないので、日本語でもその概念が全く分かりません。例えば小数の概念。母語でも小数を学んだことがないから、日本語で説明しても、母語で説明しても頭に入らない。そのため、伝えるのに苦戦したりとか、あるいはなかなか分かってもらえなかったりとか、そういうことも多々ありました。

言語の問題というのは基本的にその子ども自身の問題です。しかも私にとって、学習支援は週1回なので、その子につきっきりでいられないことができない。だからなかなか限界があるところでも承知でしたが、自分として何ができるのかということを考える必要があります。基本的には例えば文明の利器である翻訳アプリを使って接してみるとか、母語を使ってコミュニケーションをとるとか、あるいは「やさしい日本語」に置き換えてみるといったような工夫

によって、子どもたちとコミュニケーションができるということを考え、実践しました。

私が大きく変わったこととしては、やはりシャイな自分がどんどん取り除かれていくということです。自分から声をかけることができるようになっていました。やはり一番大切なのはその場にいる自分が、そのボランティアという空間において何ができるのかということを考え、実際にやってみるということです。

どこまでやれるか分からないけれど、でも、自分がしたいことを納得できるまで頑張りたいと思っています。

▶阿部 溪様(あべけい/明治学院大学1年生)

私がわたぼうし教室に参加したきっかけは2つあります。1つは、私の兄が高校時代に自身でボランティア部を設立して地域の方とか老人ホームのお手伝いとかをしているのを見て、それにあこがれを持ったことです。

もう1つは自分の周りには友人や親が外国人に対して偏見を持っていたことです。例えば、特に私のお父さんなんですけれど、テレビで事件のニュースが流れていると「どうせ裏に〇〇人いるんだよ」とか、「また〇〇人が事故を起こしているよ」みたいな感じで言うのです。外国人を一くくりにしていいのかな。〇〇人を一くくりにしていいのかな。私自身、疑問に思っていました。実際、私もそういう親の下で育てられているので、特に横浜に住んでいて中国系の方も多い地域ですから、偏見がちょっとあったんです。でも、明治学院大学に留学生の方がいっぱいいて、そういう方々と関わってみて、これって本当にこの気持ち(偏見)のままでもいいのかなって。自分で実際に関わってみれば分かるんじゃないかと思い、わたぼうし教室に通うことで大学の単位をもらえる授業があったので、参加させていただきました。

わたぼうし教室を通して気付いたことは、子どもたちはすごく純粋だということです。私自



左より阿部さん、川島さん

身、親が偏見を持っていたから、自分も偏見を持っていたというように、小さい子どもは、自分の気持ちとして持っている部分もあるけど、親に影響されていることが多くあります。自分も親に影響されていたことにも気付かされました。子どもたちも日本に対する考え方が様々で、「日本大好きだよ」と言う子もいれば、「日本ってこういうところがあるよね」みたいに偏見を持っている子もいる。その理由を聞くと、「親が言った。友達が言った」と。偏見は、自分が実際に関わってみないとなくならないんだなと感じました。子どもは、大人の言うことをそのまま受け止めて聞いてしまうから、それは、いいところでもありし、怖いところでもあるなと感じました。

もう1つはジェンダーに対する子どもたちの広さが私はすごいなと思っています。日本人の子どもたちと関わる機会があまりないので、これは外国の子どもだからなのか、現代の子だからなのか、分からないんですけど、私が担当している子どもは、ほとんど同性が好きな子どもが多くて。一人の男の子は、この前「好きな女の子がいてね」って言ってたんですけど、次の週には「ちょっとこの男の子が気になって」みたいな。もう自由だなんて思って、自分に対してすごいオープンだし、それに自信を持っているのが、すごいなと思っています。

私自身が変わったことは、関わることの大切

さに気付きました。どうしても自分が関わってみないことには相手の気持ちになれないから偏見を持ってしまうと思うのです。日本人同士でも話したことの無い人だと、「この人、顔が怖そうだから」などと思うみたいなこともありますけれど、でも話してみたらいい人だったということもあると思うのです。自分が当事者になって考えてみないと寄り添えないんだなということに気付きました。

もう1つは個人的な話としては、私が子どもをすごく好きになった。私は4人きょうだいで、上に兄が3人いて、私は一番下なんです。だから甘やかされて育ったので、年下の子を相手するのが苦手で、後輩ともどう接したらいいんだらうって思っていたのですが、実際に、わたぼうし教室で子どもたちの話を聞いて、純粹でまっすぐで、正直に気持ちを伝えてくれる子どもたちに久しぶりに出会って、自分の心が浄化された気がして、もっと関わりたいなと思うようになりました。そして、自分の将来的にもこういう子どもたちと関わったり、お手伝いできるようなことも考えるようになりました。

さっき、「手伝う」って言ってしまったのですが、大学の授業で、わたぼうし教室で活動したことを報告するんです。履修生は、「サポートした」とか、「手伝った」という言い方はあまりしません。むしろ「〇〇ちゃんの隣に座りました」とか、「〇〇ちゃんと一緒にいました」という言い方をします。それは、私たち履修生は子どもたちに日本語や宿題を教える立場だけれど、子どもたちから教わることのほうが多すぎるからです。教えるというよりも、本当「仲良くなる」というニュアンスの方がすごくしっくりくる感じの教室になっています。手伝うじゃなくて、隣に座る、一緒にいるっていうことが大切なんだなと思いました。

■次週の卓話

2/25 夜間例会

災害支援フォーラム 北澤会員

★「まもるくん」制作説明

いざというとき まもるくん

次に仮称『まもるくん』以後まもるくん。について、ご説明をさせていただきます。

■見栄えについて

まもるくんはバックとしての機能と災害時の防災頭巾として、子供から大人まで皆様にいつでも、どこでも使用してもらえ、デザイン性でも様々なニーズに対応出来る商品です。

①キルティングを裏地にして、表面を布で作りました。このことで、どんな柄の布でも商品化する事が可能になります。今回は小学生用に黄色の布を使用しました。例えば防災意識の高い企業様の販促用バックや、ハンドメイド商品としてオリジナリティの高い商品が作製可能です。

②防災頭巾にした際にカブトをイメージで作製しました。災害に対して負けない！困難を乗り越える！イメージを大切にしました。

■機能性について

まもるくんは、通常時はバックとして使用していますので、いつでもどこでも防災頭巾を持ち歩いています。屋内外、特に屋外での自分自身の身を守る防災グッズとしての機能性は非常に高い商品です。

①災害時には、持ち手のバックルと脇のファスナーをはずして、防災頭巾となります。

②持ち手バックルの長手どうしをつなげて頭部に頭巾を固定し、短手どうしつなげてアゴ下部で頭巾のズレ防止が出来ます。

③布折り返し部分を長めにしています。防災頭巾にした時に頭や顔を厚みをもって保護出来るようにしました。

④折り返し部分に隠しポケットを設け、防災グッズ等常備していざという時に備えます。

⑤ 持ち手のバックル保護の為、カバーをつけました。汚れた時に洗えるように取り外し可能です。

⑥通常時、災害時の身分証明としてネームプレートを付けました。

■就労継続支援 B 型事業所の協力

事業所との協議が必要ですが、協力には次の作業が提案出来るかと思えます。

①持ち手の取付け作業

②ネームプレートの取付け作業

③完成品の袋詰め作業